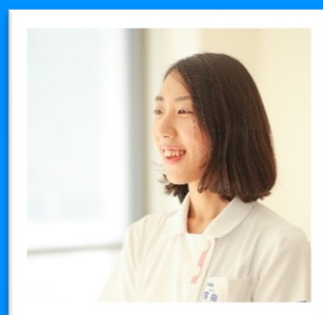


AND TO THE FUTURE

創立 50 周年。そして未来へ。



有馬温泉病院



半世紀の歴史を刻んだ有馬温泉病院。 伝統を継承しつつ、挑戦し続けます。

国内唯一である国立公園内で開設された有馬温泉病院。
その50年の振り返りを、中川理事長にお聞きしました。



理事長 中川 一彦
リハビリ認定臨床医、
外科指導医、消化器専門
医、消化器内視鏡指導医、
温泉療法専門医、産業医

50年前、有馬の山中に有馬温泉病院は誕生しました。当時は医療と介護の区別は明確でなく、リハビリテーションの概念も世の中に浸透していませんでした。開院から50年間、有馬温泉病院は発展してきました。これらひとえに職員の尽力と利用者・地域による御支援の賜物です。改めて感謝を申し上げます。

今後の日本がどの様に变化するか見通すことは困難です。この50年間に日本は発展し、そして衰退しつつあります。50年間の努力の積み重ねと伝統の継承そして日々の進化の大切さを示す事例を1つ紹介します。日本の体操競技はオリンピックで累計103個もメダルを6000万人になる予測です。これ

史に胡坐をかいている余裕はありません。目標を明確にして日常の小さな努力の積み重ねが有馬温泉病院そして職員の幸せに繋がります。そのために有馬温泉病院は目標・存在意義（パーパス）を明確にします。利用者者に真摯に向き合い、とことん尊厳を守る病院にならなければいけません。そして本院で働く職員が幸せであることが患者・利用者様に良質な医療介護サービスを提供する素地になります。50年間で培った本院の強みを生かし地域と共に進むべきです。

今年、有馬温泉病院は50周年を迎えます。日本では長く続く企業は良い企業であると言われます。医療業界は公立・公的病院が多く民間病院も医療保険で守られており病院は長く存続できる業種で

今年、有馬温泉病院は50周年を迎えます。日本では長く続く企業は良い企業であると言われます。医療業界は公立・公的病院が多く民間病院も医療保険で守られており病院は長く存続できる業種で

今年、有馬温泉病院は50周年を迎えます。日本では長く続く企業は良い企業であると言われます。医療業界は公立・公的病院が多く民間病院も医療保険で守られており病院は長く存続できる業種で

今年、有馬温泉病院は50周年を迎えます。日本では長く続く企業は良い企業であると言われます。医療業界は公立・公的病院が多く民間病院も医療保険で守られており病院は長く存続できる業種で



今年、有馬温泉病院は50周年を迎えます。日本では長く続く企業は良い企業であると言われます。医療業界は公立・公的病院が多く民間病院も医療保険で守られており病院は長く存続できる業種で

今年、有馬温泉病院は50周年を迎えます。日本では長く続く企業は良い企業であると言われます。医療業界は公立・公的病院が多く民間病院も医療保険で守られており病院は長く存続できる業種で



50年で変わったこと

1. 地域の変貌

昭和36年(今から61年前)の航空写真では有野台団地は影も形もなく山林です。その14年後の昭和50年(47年前)には団地が立ち並んでいます。50年前、有馬温泉街は昭和36年に完成した向陽閣の東館以外は木造旅館で、そろそろ鉄筋コンクリートの旅館が建ちだしたころです。ちなみに有馬グランドホテルの今の建物は平成9年(25年前)にできています。有馬温泉病院は有馬・有野の発展する時期に開院したのです。

2. 病棟再編

10年前の新築移転時は医療保険で運営される病床と介護保険で運営される病床が半分半分でした。その後、約7年をかけて医療保険のみで運営される304床の病院になりました。現在、ショートステイのみが介護保険で運営されています。2012年の職員数は295人で2022年4月は370人であり75名増えております。職員各位はロッカールームの狭さで実感さ

4. リハビリテーションユニット

開院時、本院はリハビリテーションの草分け的存在でした。その後、世の中でリハビリの必要性が広がり、大学に講座が開設され専門学校も多くできました。しかし、本院のリハビリテーションは開院当初の状態を維持してまいりました。世の中は進歩しますので現状維持は後退と同義です。10年前の新築移転時にセラピストは23名でした。2022年9月現在50名のセラピストが在籍しております。これからは地域に貢献して、より一層飛躍していきましょう。

これからの50年

1. 最上の病院と伝統の継承

新築して早くも10年が経過しました。旧病院は40年目で建て替えられています。次の建て替え時には現在在籍している職員は誰もいないでしょう。しかし有馬温泉病院の伝統は脈々と継承して頂きたいと思っています。有馬温泉病院の伝統とは誠実に進歩し続けることです。

2. 死生観の変化と医療介護職員への影響

アドバンス・ケア・プランニング

(ACP)とは、将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を

主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援するプロセスのことです。医師会、厚生労働省も強力に推進しているメインテーマです。何やら難しそうですが「自分の老後をどの様に過ごし、終末を迎えるか?」と言うことです。自分自身に大切な問題ですが、有馬温泉病院も大切な問題ですが、有馬温泉病院は「最期まで尊厳を尊重した最適な医療・ケア行っていく」という考え方が根本です。有馬温泉病院は、それを実践するために努力し続けます。

3. 創立100周年に向けた目標

今からの50年に向けた目標は「信頼される病院であり続けたい」です。信頼は1日では構築できず崩れる時は一瞬です。日々の弛まぬ努力が必要です。病院が信頼を得るには世の中が納得する医療・看護・介護レベルを必要とし、その上に丁寧な説明と接遇が必要で、そして職員全員がそれを身に着けないと病院の信用は手に入りません。創立100周年に向けて新しい伝統を作りましょう。

テレビ出演



▲テレビ「みんなの家庭の医学」(2013年8月放送)



▲Visionと戦略 (2021年4月)
▲PRESIDENT 社出版
「夢のような病院をつくる」(2014年9月)

メディア掲載



▲新しい幸福論(2013年12月)

▲PRESIDENT(2012年9月)

▲月間 KOBECOCO(2013年11月)

50th 有馬温泉病院

医療法人甲風会 有馬温泉病院

〒651-1401 兵庫県神戸市北区有馬町 1819-2
TEL(078)904-3321

通所リハビリテーション デイケアありまの湯

〒651-1401 兵庫県神戸市北区有馬町 1819-2
TEL(078)904-3301

訪問看護ステーションありま

〒651-1401 兵庫県神戸市北区有馬町 1819-2
TEL(078)903-5566

ありまの湯 居宅介護支援事業所

〒651-1401 兵庫県神戸市北区有馬町 1819-2
TEL(078)904-2520